



ユネスコ会員綱領

心の中に平和の守りを固めよう
 すべての人間の尊厳を重んじよう
 教育・科学・文化の発展に努めよう
 民族間の疑惑と不信を除こう
 世界を友愛と信頼のきずなで結ぼう

平和実現と人類福祉のために

協会の新しい発展・前進を

広島ユネスコ協会会長 永井滋郎

昨年度は、広島ユネスコ協会創立五周年ということ、かなり多彩な行事を、会員みなさんのご協力により、いずれも成功裡に遂行することができました。会員が一同に對し、心からお礼を申し上げます。

六年目に入ったわが協会は、すでにご報告いたしましたように、先般七月二十二日の本年度総会の決議に基づき、役員・組織を改編し、また国際児童年にふさわしい事業計画をもって、新しく出発しました。

この時に当たり、八月二十四、二十七日の間、大韓民国ユネスコ訪日学生団十二名を広島に迎えたことは、大いに意義のあったことと考えられます。四日間をわたって、将来の子どもたちの父であり母となる日韓の男女青年たちが、心を開いて国際親善と国際理解の実をあげ得たことは、国際児童年の観点からも、高く評価されるのであります。

このような精神をもって、広島と世界をつなぐ大きな橋となつた、広島ユネスコ協会の副会長として、常にわれわれの運動をご指導、ご支援いただいた小倉馨氏が、去る七月、急逝されたことは、あまりにも惜しく、かえすがえすも残念なことでありました。ここに、あらためて哀悼の意を表しますとともに、同氏の功業をご祈りいたします。氏の功業とご遺志を受けつぎ、世界平和と人類福祉のためのこの広島の地において世界へ働きかけていくのは、広島市民とともに広島ユネスコ協会に課せられた責務でありましょう。

今夏八月下旬の広島三越百貨店展示場での「国際児童画展」十月月上旬の第三十五回日本ユネスコ運動全国大会（鳥取）への参加及び広島市中央図書館で開催の写真展「アジアの子どもたち」、同月下旬の第六回ユネスコ青年宿泊研修、十一月予定の「広島ユネスコ少年教育講座」など、いずれも国際児童年としての協会行事であります。そのほか、広島市や広島平和文化センター、その他の平和・文化諸団体との共催あるいは協力事業も、この線に沿って計画されているのであります。これらの諸行事において、協会の青年部が常に積極的に活躍しておりますことに注目していただきたいと

存じます。以上の諸点をご理解のうえ、全面的な協力をお願いいたします。

さらに、世界ユネスコ協会クラブ連盟設立準備会議（東京）参加のアジア・アラブ・ヨーロッパ・アフリカ・ラテンアメリカ諸国からの代表十二名が、鳥取大会を経て、十月八日来広されることになっております。各国代表の方々は、平和の原点でありメッカともいふべき広島市への訪問を熱望されており、広島市民との交歓・交流を大いに期待されています。広島ユネスコ協会は、市民代表の意味をまご一同を歓迎したいと思っております。

私には、本年六月中旬から七月にかけて、約二十日間、ユネスコの国際理解教育に関連して開かれた英国中部地方レスタター市の国際会議及び研究会に、文部省派遣で参加し、帰途西ドイツのハンブルグ所在ユネスコ教育研究所を中心に、同国の国際理解教育の現況の一端にふれて参りました。この機に、ロンドン日本人学校、デュッセルドルフ日本人学校を訪問し得たことも幸いでありました。今回の英独視察をとおして、ヨーロッパでは、国際理解ということが、町や村など身近な地域社会そのものの当面する重要問題として受けとめられ、子どもや一般人のための国際理解教育が、ますます重視されてきていることを実感して参りました。

私たちは、日々個人的にどれほど平和や福祉の実現のため努力しているでしょうか。しかしたとえ個人個人の力は微弱であっても、それが組織化されて働くとき、大きな力となります。協会の存在意義は、そこにあるのではないのでしょうか。六年目を迎えたわが協会の新しい出発に当たり、質・量ともに協会の充実・発展を期待いたします。

わかれの地域社会広島市も日々国際化の度合いを強めております。現在の広島市には、四十数か国から数百にのぼる外国人が常住し、韓国・朝鮮の国籍を持つ人々も数千あり、日本国民と全く同様に、いろいろな職業に従事して生活しているのであります。外国からの留学生学術交流や外交、企業などの業務あるいは観光で来広する外国人の数は年々増加しています。原水爆禁止運動で来られる外国の方々も多いことも、よくご存知のところでありまして、

国際理解は、もはや外国に関することではなく、国内問題となってきました。したがって、身近かなところから国際理解をというユネスコ運動の今日的な意義と役割は、ますます大きいといえます。ユネスコ活動こそ、広島市民の生活の重要な柱とならなければならないと思われまふ。

われわれ個人個人は、日常の生活に取り紛れ、つい世界とのつながりを忘れがちであります。

私たちが、日々個人的にどれほど平和や福祉の実現のため努力しているでしょうか。しかしたとえ個人個人の力は微弱であっても、それが組織化されて働くとき、大きな力となります。協会の存在意義は、そこにあるのではないのでしょうか。六年目を迎えたわが協会の新しい出発に当たり、質・量ともに協会の充実・発展を期待いたします。

世界連盟結成へヒロシマからの発言を

八十年代を展望したユネスコ活動を考える

広島県ユネスコ連絡協議会会長 内 海 巖

全世界に核兵器廃絶・被爆者援護を訴えた「原水爆禁止一九七九年世界大会」は、東京の国際会議に始まり広島大会と長崎大会で終わった。これに先だつ七月十三日、私たちの敬愛する広島市長室次長・広島平和文化センター事務局長・広島ユネスコ協会副会長の小倉馨氏が急逝された。哀惜・痛恨の情を今なお禁じ得ない。小倉氏はヒロシマの国際交流・平和文化・平和運動の推進と発展を支える逸材であった。「ヒロシマになぜ」が遺著になるとはご自身も考えられなかったはずである。謹んでご遺志を体し「ヒロシマの心」を伝え続けることを誓う。

「原水爆禁止一九七九年世界大会広島実行委員会」へは広島県ユネスコ協が本年も参加し、会長として代表委員に加った。広島大会では原水協・原水禁・核禁会議の大同団結が実現し、国連軍縮センター所長や経済社会理事会NGO委員会議長の出席もあって、広島大会が統一への流れを定着させ、平和運動の原点

としての成果を示したことは前進として評価できる。広島ユネスコ青年部が核となって「平和を語る青年のつどい」をもち、着実に輪を広げたことも称賛される。大会をつうじて平和教育を世界的規模に拡大せよとの声が多かったことをヒロシマとしてがっちり受けとめなければならぬ。

パリのユネスコは、平和教育の国際会議を日本で開催したい希望をもっている。聞くが、第十八回ユネスコ総会の勧告する「国際教育」の基本原則からいえば「平和教育」と「国際教育」とはユネスコ自体において一元的に統合されるべき課題である。

前号の私の文章に記したようにユネスコ内部（第二十回総会）に分裂がある以上、この実現の見通しは明るいとはいえない。しかし、「国際理解」身近なところからの出発を掲げた「一九七九年度全国高校ユネスコ研究大会」（七月二十七～三十日国立警備青年の家）は以上の統合を可能にする一つの方法を示

すものとして高く評価したい。

広島ユ協高橋昭博氏の記念講演「ヒロシマ一ひとりからの出発」からユネスコ憲章の理念を体得し、「人間のいたみがわかる心」それは被爆者の心であり、にくしみを越えて人類の生存のために立ちあがるヒロシマの心である——から出発することが平和の原点であると確信して平和のために実践することを学んだ。また、フィールドワークを体験し、文化・環境・福祉・国際理解のなまの問題から実践活動のあり方を身につけた二百六十名の参加者の目は感激と自信に輝いていた。

「国際児童年」をめざした昨年の岐阜大会の成果をふまえて開かれる「第三十五回日本ユネスコ運動全国大会」（十月六～九日・鳥取）では、「実践しよう地球市民の連帯を！明日に生きる世界の子どものために」を掲げ、教育・文化・環境福祉・コアアクションの四部会をとおして討議を深め、強力な実践活動への道を開こうとして

いる。「第三の人權時代」といわれる今日、「国際人權規約」を具体化するには、これまで無視ないし軽視されがちであった老人・女性・子供・心身障害者や永住外国人への諸人權の復権とならんで、世界諸地域における貧困・疾病・飢餓・公害・難民など、生存の危機にある民族や地域集団の実態に目をひらき、人類生存のための支援活動がユネスコ実践としてとりあげられるべきだ。そうであつてこそ、ヒロシマ・ナガサキの原点は、上述の諸原点と連帯して人類生存の原点の意義が再認識されることになる。私は、「ヒロシマの心」の延長線上に鳥取大会の意義を考えたい。

民間ユネスコ協会クラブ世界連盟結成のための第一回準備委員会が鳥取大会と併行して東京・鳥取・広島の地で開かれる（十月一～十五日）世界各国からの十二名の委員を迎えてヒロシマからの発言は、世界連盟の事業に対して重要な示唆を与えるものでありたいと思う。私は広島ユ協会員各位とともに思いを深め、実践の方途を探り、今後に予定される広島ユ協と広島ユ連協の諸活動に清新の気風がみなぎるように念願する。

小倉さんの死は大きな損失



七月十一日（水）平和記念館で、ことしの平和記念式典で荒木市長が世界に発する「平和宣言」案を、私ども関係者とともに作成していたとき、午後五時四十分ごろであつたらうか、小倉さんは急に「頭がおかしい」、「こんな痛さは初めてだ」と言って気分を悪くされた。顔が真青だった。それから三時間後私は、小倉さんが倒れたことを電話で知った。そして十三日、帰らぬ人となられた。あれほどの国際感覚を身につけ、豊かな人脈を持っておられた小倉さん、しかも、そうしたすぐれた才覚と実力がありながら、決して表面だつて誇示するような人ではなかつた。きわめて謙虚で誠実な人であつた。

そんな小倉さんを失つたことは、広島市全体として大きな痛手であり、損失である。心からご冥福をお祈りする。

（高橋昭博記）

青年活動は目的意識をもつて

広島ユネスコ協会青年部長 薄 田 信 也



今年の二月十日・十一日の二日間、黄金山荘において青年部は宿泊研修を行なった。部員が

多数参加し、ことしの活動方針について活発な討論を行なった結果、原爆Ⅱ平和に関する活動と児童画に関する活動とを中心に行なうことにしたのである。

原爆Ⅱ平和に関する活動として、四月五日・六日に読書会を行ない、「広島で核を考える」をテキストに取り上げた。また、

青少年センターが行なった青年教養講座の講師も青年部の意向が取り入れられ、読書会のテキストにした本の著者である熊田氏に決まり、この講座にも多数の部員が参加した。一方、昨年八月に行なわれたコーヒー・ショップのような集いを今年八月にも行なうことを計画した。

われわれ青年部だけで行なうのでは発展がないので、市内の多くの青年たち呼びかけを行ない、集まった青年達で「平和を語る青年の集い実行委員会」を結成し、八月五日に青少年センターにおいて全国から集まった多くの青年達が参加して集いもたれた。今後、青年部はこの集いの実行委員会の中心として活動を行なうつもりである。児童画に関する活動としては、八月二十八日から九月二日まで三越で日ユ協・広ユ協の主催で行な

われた世界の児童画展において、児童画の展示や期間中の運営などに参加・協力をした。また、外国との絵の交換や、祇園公民館における児童画コンクールにも参加・協力をした。このほか、韓国青年ユネスコとの交歓会や、西日本ブロック大会などにも参加した。今後、充実したユネスコ青年部にするため、地道に、しかも目的意識をもった活動を前向きでやっていきたいと思っている。

平和運動の輪を世界に

深 瀬 文 恵

Peace Study in America

このたび、ワールドフレンドシップセンター主催の教師交換プログラムに参加させてもらった私達四名は、三十七日間、アメリカで平和行脚を行ないました。目的は、「ヒロシマの心」を伝えアメリカの平和運動の現状を学ぶことでした。

平和運動のかかわり方には、様々な立場で、また方法論も沢山ありますが、究極は、心と心の触れあいであるということ自分の肝に銘じて旅立ちました。ラバン（ロサンゼルス）の近く

で、一週間オリエンテーションを受けた後、ニューヨーク、フィラデルフィア、ワシントンD・C、ローノック、ウイルミントン、デトロイト、ウイチタ、ニュートンの順に訪れました。様々なかたちで、また、沢山人々とのふれあいの中で、ほんとうに多くのことを学ばせていただきました。ニューヨークでは、国連を訪れ、ユネスコのオフィスで一時間余り話を聞き国連の事務次長に、広島から準備した被爆かわらを手渡しまし

た。最も印象深かったのはフィラデルフィア（八月四日と八日）の滞在です。目的地に着くとすぐ私達は、若者を中心にした平和フェアに参加しました。公園の近くの青空のもとで、スピーチや歌や、展示などを行ない、平和に関心をもつそれぞれのグループが、土の上に座り込んでひざをまじえて平和問題についての意見交流を行なっていました。自由な雰囲気のもとで、ごく自然なかたちで人々が集まっ

た。最も印象深かったのはフィラデルフィア（八月四日と八日）の滞在です。目的地に着くとすぐ私達は、若者を中心にした平和フェアに参加しました。公園の近くの青空のもとで、スピーチや歌や、展示などを行ない、平和に関心をもつそれぞれのグループが、土の上に座り込んでひざをまじえて平和問題についての意見交流を行なっていました。自由な雰囲気のもとで、ごく自然なかたちで人々が集まっ

た。この地で、私は、ヒロシマの認識と使命を、改めて強く肌をとおして感じました。各地の会議やパーティーなどで、三十四年前のヒロシマや、現在の平和運動の実態、学校における平和教育、若者の平和に対する意識などについて質問されました。平和運動は、一人一人を出発点とし、日本はもとより世界中の人々が手を取りあい、情報を交換しあって効果的な運動を展開しなければなりません。平和を熱望し、私達と手を取りあって動いてゆこうとするアメリカの人々の心につれ、私達も、もともと、平和運動の輪を世界にひろげてゆく必要を、体験をとおして感じました。

(国際交流担当理事)



いつまでも絶えることなく
友だちでいよう
あすの日を夢みる希望の道を
信じあう喜びを大切にしよう
今日の日はさよなら
また会う日まで

今日の日はさよなら

伊 東 亮 三

八月下旬に、韓国ユネスコ学生訪日団を迎え、一夕、青年部主催の歓迎パーティが開かれ、その会に、中年部か老年部か？

ってはこの老婆心からの出席というの本音であったかもしれません。

ところが、会は、言葉の不自由さにもかかわらず、青年部の多くの親子連れでにぎわった。

また、同時に行なわれたコーアクション募金にも、多くの善意が寄せられ、大成功のうちに終了した。

世界児童画展 成功裡に終了

八月二十八日から九月二日まで、日ユ協、当協会主催、青年部主管のもとに三越百貨店で、世界児童画展を開催した。

これらの絵は、日ユ協などが行なった世界児童画コンクールの入選作で、八十か国百余点が各国大使のメッセージとともに展示された。

会は、連日盛況で絵をとおし見知らぬ国への思いを馳せる

を代表して出席することになりました。表向きは、理事として、責任者として出たわけですが、両国の国情の違いもあり、青年部だけではトラブルでもあり

進行で、実になごやかな雰囲気です。歌ありゲームありで、二時間の予定が延びてしまうほどでした。そして、最後に、両国の若者が肩を組み、輪になって歌って

ちなわれわれ中年、老年の目で彼らの姿を見るとき、先に老婆心をもったことが恥ずかしく、若者たちが、われわれとは違った両国の新しい友情ある関係を作り出すであろうことを強く確信したのでした。

たのが、最初に書いた歌なので、メロディーもいいのですが、歌詩のよさはどうです。半島との暗い不幸な過去を知り、負い目をもって半島の人々に接し、その代表委員が、広島を訪れ、ヒロシマを知り、平和の原点を確認し合うことの意義はきわめて大きい。平和への輪がヒロシマから世界へより大きく広がることを期待したい。

ユネスコ世界連盟代表が来広

現在、結成の準備が進められている、「ユネスコ世界連盟」の設立準備委員十二名が、十月広島を訪れ、ヒロシマを学ぶ。

委員は、世界各地域からの代表で、十月二日から十五日まで滞在し、この間、第一回世界連盟準備会議（東京）、全国大会（鳥取）にも出席する。ユネスコ世界連盟設立を控え

国際児童年「アジアの子供たち」写真展開催

十月六日から十一日まで、市中央図書館ホールにおいて「アジアの子供たち」写真展を開催する。

これは、国際児童年にちなんで、アジアの国々の子供たちの生活を知ってもらおうと、当協会が企画したもので、写真パネル三十数枚を展示する。

第六回ユネスコ青年セミナーを開催

当協会青年部は、十月二十日と二十一日に三流ライオンズ山荘で「ユネスコ青年セミナー」を予定している。

これは、青年にユネスコを紹介し、広くユネスコ精神を伝えてゆくために、毎年青年部が開催しているものである。今年も多くの青年の参加が予想され、セミナーを機に、青年部の一段の発展が期待されている。

広島ユネスコ協会 昭和五十四年度役員

- 名誉会長 荒木 武
- 顧問 内海 巖
- 会長 永井 滋郎
- 副会長 松原 博臣
- 常任理事 尾尻 隆之

- (教育活動) 伊東 亮三 太鼓矢 晋
- (組織活動) 古川 浩司 石田 昌義
- (文化活動) 加藤 朗一 新川 貞之
- 溝上 泰

- (国際交流) 深崎 敏之 深瀬 文恵
- (広報活動) 高橋 昭博 今村 信昭

- 理事 (順不同) 保野 仁一 増田 昭二
- 田中登志子 亀山 昌己
- 斉藤 清三 信井 正行
- 江川 琢也 滝口 節夫
- 藤井千之助 北川 建次
- 池田 博重 末野 忍
- 山中 善和 亀井 章
- 藤井 正一 長迫 凱郎
- 福永 武志 藤本 嘉一
- 山根 繁徳 古田 碩永
- 松岡 盛人 薄田 信也
- 白石まゆみ

- 監事 生塩 公敬 水野 文隆
- 事務局長 赤毛 行夫